〈小学校 道徳〉

自他の考え方の違いやよさに気付き、自らの考えを深める授業づくり ~思考を深める発問のエ夫と、対比的・構造的な板書のエ夫を通して~

南城市立佐敷小学校教諭 久 保 田 力 也

I テーマ設定の理由

近年、児童を取り巻く環境は、大きく、そして急速に変化し、価値観の多様化や人間関係の希薄化をもたらしている。この価値観の多様化や人間関係の希薄化は、いじめの原因の一つになっている。いじめ問題への対応を契機として、「小学校道徳」は、平成30年度から「教科化」され、名称が「特別の教科 道徳(道徳科)」となる。児童が解決困難な問題に主体的に対処することのできる実効性のある力を育成していくことが、道徳教育に強く求められている。

我が国の教育は、教育基本法第1条に示されているとおり「人格の完成」を目指しており、その人格の完成の基盤となるものが道徳性(人間としてよりよく生きようとする人格的特性)である。小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編(平成27年7月、以後「道徳編」と表記)で、道徳科は「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳性を養うこと」を目標として挙げている。それは教科化にあたり、道徳性を養うことはもちろんのこと、物事を多面的に考え(一つの対象を様々な面から捉え考えること)、そして多角的に考える(対象に対して、とりうる行為を様々に考え、根拠を明らかにしながら、柔軟に創造して考える)ために、「考え、議論する道徳」への転換が求められている。

これまでの実践をふり返ると、心を揺さぶり、本心にせまるような発問の工夫が十分でなかったことにより、児童の考えが広がらず、深まらず、結果的には道徳的価値の押しつけや誘導になるという授業の現状があった。また、時系列に文字が並ぶ板書がほとんどで、児童の多様な思考が見え、思考が広がるような板書として不十分な内容であった。更に児童が自分の考えと友達の考えを吟味したり、周りとの関わりを考えたりしながら、自分を振り返る時間を作ることも十分できなかった。

道徳編では、「道徳科に生かす指導方法の工夫」の例として、「発問の工夫」と「板書の工夫」について示されており、授業において発問と板書の工夫を行っていくことが求められている。つまり、これからの道徳の授業は、児童が授業の中でねらいとする価値について吟味し、話合いを通して、新たな感じ方や考え方に触れて、更に深く考える時間にしていく必要があると考える。

そこで本研究では、児童一人一人が自他の考え方の違いやよさに気付き、自らの考えを深める授業づくりについて、研究を進めていく。思考を深める発問を工夫した授業を展開していくことによって、児童は様々な感じ方や考え方にふれることができ、道徳的価値の理解を深め、自らの考えを深めることができると考える。また対比的・構造的な板書の工夫をすれば、児童が思考を広げるきっかけとなり、道徳的価値の理解を深め、自らの考えを深めることができると考え、本テーマを設定した。

Ⅱ 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

道徳の授業において、次のような指導の工夫をすれば、児童一人一人が自他の考え方の違いやよ さに気付き、自らの考えを深めるであろう。

- (1) 思考を深める発問の工夫をすれば、児童は様々な感じ方や考え方にふれることができ、道徳的価値の理解を深め、自らの考えを深めることができるであろう。
- (2) 思考を深める対比的・構造的な板書の工夫をすれば、児童が思考を広げるきっかけとなり、道徳的価値の理解を深め、自らの考えを深めることができるであろう。

2 検証計画

事前調査のアンケートや先行授業等から、児童の実態調査・分析・把握を行う。それを基に本研究のテーマである発問の工夫と板書の工夫の研究を進める。検証授業は5年1組と5年2組の学級

で8時間程度行う。そして事中調査では、授業の際に記入したワークシートによる児童の考え方や 感想、授業観察、実際の板書等から研究仮説が有効であるかどうか分析する。第8回の検証授業終 了後に、事後調査を行い、事前調査との比較分析で児童の変容を検証し、成果と課題を出す。

検証	検証の方法							
事前調査	○事前アンケート・先行授業	・授業観察						
	平成28年5月10日(火曜日)2校時(5年1組)	・事前アンケートの分析						
		・ノート記述						
事中調査	検証の観点(1) 思考を深める発問の工夫をすることは,児童が様々な感じ	・授業観察(発言等)						
検証授業	方や考え方にふれることができて,道徳的価値に対する考え	・ワークシート						
	を深めることに効果があったか。	・実際の板書						
	検証の観点(2) 思考を深める対比的・構造的な板書の工夫をすることは、 ・							
	児童が思考を広げるきっかけとなり、道徳的価値に対する考							
	えを深めることに効果があったか。							
事後調査	○事後アンケート	・事後アンケートの分析						
	平成28年7月12日(火曜日)5校時(5年1組)	・ノート記述						
まとめ	○道徳の授業において,思考を深める発問の工夫や対比的・構造的な板書	・事前事後の比較分析						
	の工夫を図ることは,児童一人一人が自他の考え方の違いやよさに気付	・事前,事中,事後の結						
	き,自らの考えを深めることに有効であったか。	果のまとめ						

Ⅲ 研究内容

1 自他の考え方の違いやよさに気付き、自らの考えを深めるとは

(1) 「自他の考え方の違いやよさに気付き、自らの考えを深める」の解釈

道徳の時間について、長谷(2016)は「道徳の時間はいろいろな考え方や感じ方と出会って自分の考えをまとめる時間」と述べている。それは道徳の時間において、ある問題に対して自身の考えと他者との感じ方や考え方を比較吟味し、「自分の考えと同じだ」「自分とは違う。そういう考え方もあるのだ」「相手の考え方を聞いて改めよう」「相手の考え方がヒントになって新しい考え方が生まれた」等の変化や心の動きが芽生えることである。つまり、それが「自他の考えの違いやよさに気付く」ということになり、多面的に考えることにつながる。

次に「自らの考えを深める」について考える。道徳編には、「物事を多面的・多角的に考える学習を通して、児童一人一人は、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考えを深め」とある。つまり「他者との学習を通して新たな感じ方、考え方に触れて、更に深く考えるということである。そこで価値理解(道徳的価値は大切であること)と同時に、人間理解(道徳的価値は大切であるが実現は難しいこと)や他者理解(道徳的価値に関しては多様な感じ方、考え方があること)をも深めていくような指導の工夫が必要になる。その価値理解、人間理解、他者理解を深めるということは道徳的価値の自覚につながる」と赤堀(2013)は述べている。それは「自らの考えを深める」と「道徳的価値の自覚を深める」は同様の意味と捉えることができる。

また、赤堀は「児童一人一人に自分の感じ方、考え方を明確に持たせ、他者の感じ方、考え方と比較できるようにすることは価値の自覚につながる。具体的には道徳的価値の理解の中の他者理解をしっかり図るということである。友達の多様な感じ方や考え方にふれることで、自分の感じ方や考え方がより明確になり、自覚が促されるのである。」とも述べている。それは、やはり、他者との学習を通して新たな感じ方、考え方に触れることで、更に深く考えるということにつながると考える。そしてこの場合、児童に多面的・多角的に考えさせるためには、発問の工夫が必要であり、児童の発言を適切に分類・整理してわかりやすく児童に示す等の板書の工夫が、教師には求められると考える。

(2) 「考えを深める」について

「考えを深める」について、 真榮城(2016)の提唱する \mathbf{Z} 「ねらいとする価値への追求の見通し」と内容項目 $\mathbf{B} - \mathbf{7}$ 「親切、思いやり」を用いて説明する。

児童は道徳的価値について、何も知らないわけではない。児童なりの知識もあり、道徳的について理解もしているはずである。では道徳的価値についてある程度知っているという理由で道徳の授業は終わりになるのだろうか。むしるで後では更に広げたり深めたりしなければ授業は成り立たないと考える。他者の意見と交流し、更に深く考えるということがなければ、それは個人内での価値の確認になってしまい、右記のIの価値の自覚で終わって、改めてIIの価値を自覚させる。しかしそれも資料を読めば児童はおおよそ理解してしまう。そこで真

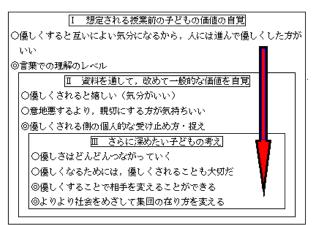


図1 「ねらいとする価値への追求の見通し」

榮城は「Ⅱの自覚を本時で最低限児童に自覚させたいゴールとして捉え、Ⅲのさらに深めさせたい子どもの考えを設定することで、更に児童の考えは深まるだろう」と述べている。Ⅲの考えは授業を深めていくステップアップになるはずである。こうしたⅠ・Ⅱの自覚及びⅢの考えを整理し設定することで、授業者はねらいとする価値について深く分析することにつながり、ぶれない授業展開の柱をつくることにつながるはずである。

しかし「Ⅲの考えは必ずしも全員が到達できなくてもよいものであり、授業の中でそこまでいかなくてもよいという姿勢が授業者には必要である。なぜなら、児童が自ら考え到達することが重要であり、教師が誘導したり、教えてしまったりしては考える道徳に成り得ないからである。また、児童が理解できていないのにも関わらず授業を強引に進めていってしまう恐れがあるからである。」と、眞榮城は述べている。

2 思考を深める発問の工夫とは

(1) 発問の分類

道徳編の「道徳科に生かす指導方法の工夫」には、「発問」について、次のように述べられている。「教師による発問は、児童が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話合いを深める上で重要である。発問によって児童の問題意識や疑問等が生み出され、多様な感じ方や考え方が引き出される。そのためにも、考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問等を心掛けることが大切である。」このことからも、道徳の授業においては、やはり発問の工夫は重要であると考える。

児童一人一人に自分の感じ方、考え方を明確に持たせ、その感じたこと、考えたことを話合わせ、友達の多様な感じ方、考え方に触れることで、自分の感じ方や考え方がより明確になり、深まると考える。児童一人一人に自分の感じ方、考え方を明確に持たせ、話し合わせるための発問と、道徳的価値の自覚が深めるための発問を設定しなければならない。そこで学習のねらいにせまるために、「多様な考え(価値観)を引き出す発問」と「思考を深める発問」が共に必要となる。

ここでいう「多様な考えを引き出す発問」とは、道徳的価値に関わる一様でない思いや願い、 考え方を引き出すための発問である。児童が道徳的価値の自覚を深める上で、多様な感じ方や考 え方を引き出し、様々な考え方に触れていくことは重要である。その発問を通して児童の思考は 「多面的な思考」となる。また多様な考えを引き出すとは、たくさんの児童にたくさんの意見を 言わせるといった意味ではなく、発問する際に、しっかりと意図を持って設定することが大事だ ということである。主人公の気持ちや考えに共感し、想像する共感的な発問や主人公の考えや話 の意味、心の変容等をいろいろ考え判断する分析的な発問、主人公を自分に置き換え自分の事と して考える投影的な発問等が主として考えられる。

次に「思考を深める発問」とは、児童が道徳的価値の 自覚を深める上で、多様な感じ方や考え方に触れ、価値 理解と同時に人間理解や他者理解を深め、更に自分で考 えを深めていくために必要なものである。その発問を通 して児童の思考は「多角的」な思考となる。またこの発 問を通して, ねらいとする価値の一般化・深化を図る。 主人公を自分に置き換え自分の事として考える投影的な 発問、主人公の考えや行為に対し自らの考えを持つ批判 的な発問等が主として考えられる。

更に、この「多様な考えを引き出す発問」と「思考を深 める発問」に発問を精選することで、時間短縮が図られ、 終末の時間が足りなくなることが改善されるはずである。

授業の展開前段では多様な価値観の交流をさせ, 自分 と友達の意見が同じ点や違う点を比較しながら聞かせ, 自分が気づかなかった考え方に気づかせるために「多様 な考えを引き出す発問」を設定する。展開後段では、多 角的に考えさせるために「思考を深める発問」を設定す る。そして、永田(2016)が提唱する、主人公に対して考して考して考して考して える立ち位置による発問の工夫を用いて、発問を更に細か 表1 主人公に対して考える立ち位置 く分類する。(表1)

共感的な発問…主人公の気持ちを問い,また主人公の 考えの中身を問う

○~は今どんな気持ちだろう。

○~はどんな事を考えているだろうか

○~はどんな思いで~しているか。

分析的な発問…主人公の行為や内容の意味を問い、ま たその原因や理由について問う

○~にはどんな意味があるだろうか。

○本当の~とは何だろうか。

○~がそうしたのはなぜだろう。

○なぜ、~は~なのだろう。

投影的な発問…主人公に自己置換させて問い, また迷 いや葛藤等の中で選択的に問う

○~のとき、自分だったらどうするか

○自分がそこにいたらどうするだろう ○自分なら、そこで何と言うだろう。

○自分は~のようにできるか。

抵判的な発問…主人公やお話に対する考えを問い、ま た子ども自身の考えや生き方を問う

○~がしたことをどう思うか。

○~の行為や生き方をどう思うか。

○この~(価値)をどう考えるか。

○~は本当にそうしてよいのか。

○~の話について納得できるか。

による発問の工夫

(2) 指導過程における発問の考え方

展	展開 指導過程		発問の工夫 (例と予想される児童の反応)					
導入		○ねらいとする価値への方向付け	○ねらいとする価値への方向付けをする発問					
5分		・課題を共有させ、興味、関心を持	(例)「親切とはどんなことだろうか」					
		たせる。(経験や解釈の発表)	「親切はどうして大切なのだろうか」					
			「これまでに人に親切にしたことはありますか」					
展	前	○中心資料におけるねらいとする価	※ここではまず主人公に児童自身を重ねて考えさせてたり、自由に					
開	段	値の主体化・追求・分析・把握	発想させたりする発問が有効である。					
	15	・主人公の道徳的行為や感じ方,考	○多様な考えを引き出す発問 基本発問 (主に共感的・分析的)					
	分	え方を追求させる。	(例)「主人公はどんな気持ちだろうか」(共感)					
		・他者理解を深めさせる。	「手紙が来なかったら気持ちは晴れないのだろうか」(共感)					
		※資料を中心とした話合いの中で,	「むしゃくしゃしていたのになぜだんボール箱をかた付けたの					
	多面的な思考を促す。		だろうか」(分析)					
	「主人公はなぜそうしようと思ったのだろうか」(分析		「主人公はなぜそうしようと思ったのだろうか」(分析)					
		○どの展開段階においても、児童の考えを広げたり深めたりするために、教師が重要と感じた児童の発						
		言に対しては、問い返し・切り返しの発問、ゆさぶりの発問は適宜必要である。						
	後	(例) 意味を問う:「○○ってどうい	うことかな?」					
	段	根拠を問う:「どうしてこう言	ったと思う?」「なぜ、~になったのかな?」					
	15	15 よさを問う:「~のいいところは何ですか?」						
	分	分 正誤等を問う:「本当にそうかな?」「もし~でなかったなら」						
	○ねらいとする価値の一般化,深化 ※前段で児童の発言を十分受けた後に等,理由や根拠を問		※前段で児童の発言を十分受けた後に等,理由や根拠を問う発問を					
	・自己を見つめさせ、自分をふり返		行い、児童の考えをより深める。					
		らせる。	※児童の言葉を使って教師による適切な意味づけを行うことは大切					
		・価値理解,人間理解,自己理解を	である。					

※資料から離れた話合いの中で,			○ 匹考を深める発問 中心発問 (主に投影的・批判的) (例)「自分だったらどう考えるか、どうするか」 (投影) 「親切にするにはどんなことが大切だろうか」 (批判)				
			971117.67G. T.C.I.C.7.6	「本当の親切をどう考えますか」(批判)			
	終末		○ねらいとする価値の整理と意欲化	○実践への意欲を高めるためのふり返り			
	10分		・道徳的価値の自覚を踏まえて自己	(例)「これからは主人公のような気持ちを大切にしていきたいね」			
			の生き方を見つめ直させる。	「親切にするっていいでね」			
			(ふり返り,感想,発表)	※ふり返りのためワークシート記入の時間確保。			

以上のような指導過程において、思考を深める発問の工夫をすれば、児童は様々な感じ方や考え方にふれることができ、道徳的価値の理解を深め、自らの考えを深めることができるであろうと考える。

3 思考を深める対比的、構造的な板書の工夫とは

(1) 板書とは

「板書づくりは授業づくり」や「板書は授業を写す鏡である」といった格言があるように、特に道徳では発問と並んで大切なものとされている。道徳編では、「道徳科に生かす指導方法の工夫」において「道徳科では黒板を生かして話合いを行うことが多く、板書は児童にとって思考を深める重要な手掛かりとなり、教師の伝えたい内容を示したり、学習の順序や構造を示したりするなど、多様な機能を持っている。板書の機能を生かすために重要なことは、思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、教師が明確な意図を持って対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりする等の工夫をすることが大切である。」とある。人間は、自らの頭の中で考え、整理し、まとめ、書くことによって思考が深まる。これは児童だけでなく、教師が書く板書も同じであると考える。また、そのままでは消えてしまう言葉のやりとりやポイントとなるキーワードを記録し、黒板に残すことで児童の思考の拠り所となる。よって、教師が意図して行う板書は、児童の思考を広げたり深めたりすることに大きな効果があると考える。児童の思考を促すために、何をどのように示すのか、しっかりと事前に練る必要がある。

また永田・長谷・馬場(2012)は、「道徳の時間は子どもの多様な意見が引き出されて、並べられてからが重要な学び合いの局面となる。黒板に示された考えの違いを比べ合ったり、そのことについて議論したりすることで、一人一人の価値観が一層鮮明なものとなる。」と述べている。道徳の授業においては、板書の果たす役割は大きいと考える。

(2) 板書のもつ特性

板書のもつ特性について、永田・長谷川・馬場は、板書の5つの機能を述べている。

- ① 情報の提示…教師の伝えたい内容を示したり、それを全員で確認したりする。
- ② 構造的理解…考えたい中身を、その順序や構造を生かして整理する等して子どもの理解を促す。
- ③ 補足・補強…内容を補足したり、視覚的に強調したりする。
- ④ 協同思考……個人の考えや共通に与えられた情報を生かして、学級全員の思考の中心的な 画面とする。
- ⑤ 授業参画……子どもの練習や作業,発表,議論や討論の場として生かす。

このような板書のもつ特性を意識しながら、対比的、構造的な板書の工夫をすることで、児童 は思考を広げるきっかけとなり、道徳的価値の理解を深め、自らの考えを更に深めることができ たであろうと考える。

(3) 心がけたい板書づくりの構えと方向

上記の板書のもつ特性や課題を踏まえ、どのような板書づくりに臨めばよいのか考える。そこで、永田・長谷・馬場は、板書づくりの構えと方向を次のように述べている。

- ① 構造的な板書にする………話の組み立てや話合いの流れ、内容の違い等が構造的に映し出されるようにする。
- ② 中心の見える板書にする……中心的なテーマが何なのか、中心場面がどこなのか等、板書

- の心臓部に幅をとり、そこを印象付けられるようにする。
- ③ 一体的に生かす板書にする……画面全体に思考過程を見せたり、一つの舞台として生かしたりする等一体的な活用をする。
- ④ 子どもと共に創る板書にする…板書に子どもの発想を取り入れたり、子どもが参画できる部分を作ったりする。

Ⅳ 検証授業

1 検証計画 (※内容項目の表記は、道徳編を参考に記述する)

資料について	ねらい	評価方法	実施日時
主題名 :命があったからこそ	生きていることの喜びを感	・授業観察(発言等)	6月17日(金)
資料名 :「命がないと始まらん」	じながらかけがえのない命	・ワークシート	3校時(5年2組)
内容項目: D-19 生命尊重	を大切に守っていこうとす	・実際の板書	6月21日(火)
使用教材:希望をもって(東京書籍)	る心情を育てる。	・カメラ・ビデオ撮	5校時(5年1組)
主題名 :自分に誠実に	正直で陰ひなたなく,常に	影と分析	6月24日(金)
資料名 :「見えた答案」	明るく誠実に行動しようと	・アンケート	3校時(5年2組)
内容項目:A-2 正直,誠実	する心情を育てる。		6月28日(火)
使用教材:希望をもって(東京書籍)			5校時(5年1組)
主題名 : 役割を果たす	集団の中での自分の役割を		7月1日(金)
資料名 :「かれてしまったヒマワリ」	自覚し、主体的に責任を果		3校時(5年2組)
内容項目:C-14 勤労	たそうとする心情を育てる。		
使用教材:希望をもって(東京書籍)			
主題名 :互いに理解し合う心	男女関係なく互いに理解し		7月5日(火)
資料名 :「心のレシーブ」	合って友情を育て,協力し		6校時(5年1組)
内容項目: C-10 友情,信頼	ようとする心情は大切であ		
使用教材:希望をもって(東京書籍)	ることに気づかせる。		
主題名 :相手の立場に立って	相手が喜ぶ・喜ばない,誰		7月8日(金)
資料名 :「くずれ落ちただんボール箱」	かに褒められる・褒められ		3校時(5年2組)
内容項目:B-7 親切,思いやり	ないではなく,相手の立場		7月12日(火)
使用教材:希望をもって(東京書籍)	に立って考えて,誰に対し		5校時(5年1組)
	ても思いやりの心でもって		
	接することの大切さに気づ		
	かせる。		

2 本時の検証授業

- (1) 主題名 相手の立場に立って
- (2) 資料名 「くずれ落ちただんボール箱」(道徳5 希望を持って 東京書籍)
- (3) 主題設定の理由
 - ① ねらいとする道徳的価値 (B-7 親切,思いやり)

道徳的価値の「B-7 親切,思いやり」の内容項目は「誰に対しても思いやりの心をもち,相手の立場に立って親切にすること。」と示されている。人は,他人とのかかわりの中で生活をしている。自分のことばかりを考えたり,自分の思いだけを主張したりしていては望ましい人間関係を構築することはできない。そこで,大切にされるものが,人を思いやる心である。思いやりとは,相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り,相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。また,その後には相手の存在を受け入れ,どのようなことが相手のためになるかをよく考えた姿勢や親切な行動が求められる。

児童はそのような価値の大切さについてはある程度,理解しているはずである。しかし,生活の中では,自己中心的な考えや,打算的な考えによって相手の立場に立って考えた行動ができないことはよくある。更に,普段の生活であまり関わりのない人に対して相手の気持ちを考えた行

動をとることは、なおさら難しくなる。これは誰にでも起こり得ることである。

相手が喜ぶ・喜ばない、誰かに褒められる・ 褒められないではなく、相手の立場に立って考 えて、誰に対しても思いやりの心をもって接す ることができる人でありたい。この学習を通し て相手の立場に立って考え、誰に対しても思い やりの気持ちをもって親切にしようとする心情 を育てたい。

そこで、価値の自覚と更に深めたい子どもの考えを整理し、「ねらいとする価値への追求の見通し」図2を設定した。

- ② 児童観(省略)
- ③ 教材観(省略)
- ④ 指導観

I 想定される授業前の子どもの価値の自覚 ○親切は大切である ○親切にすることは相手が喜ぶ、自分は相手に感謝される ○親切にすることで,する人される人が,お互いによい気分になるので, 人には進んで親切にした方がいい ◎言葉での理解のレベル Ⅱ 資料を通して、改めて一般的な価値を自覚 ○親切をするためには、相手の立場に立って考えることが大切だ ○親切は、相手が喜ぶ・喜ばない、誰かに褒められる・褒めら れないではないによるところのものではない ○誰に対しても,思いやりの心をもって接することが大切だ ○相手のことを考え、親切にすると気持ちがいい ◎よりよい人間関係築くことができる Ⅲ さらに深めたい子どもの考え ○自分自身もいろいろな場面でいろいろな人から 思いやりの心でもって親切にされた

図2 「ねらいとする価値への追求の見通し」

指導するにあたって、導入部分でアンケート結果を紹介する。アンケート結果から最初は深い自覚に至っていないと思われる。優しさ、思いやり、親切にするという気持ちは大事であり、 みんなそれなりに持っているということを簡単に押さえる。

展開前段では多様な価値観の交流をさせ、自分と友達の意見が同じ点や違う点を比較しながら聞き、自分が気づかなかった考え方に気づかせる。多面的に考えさせ、多様な考えを引き出すため「『わたし』と友子さんはだんボール箱のかた付けを手伝うことにしたのはなぜだろうか。」と「店員田口さんの手紙が来なかったら二人の気持ちは晴れなかったのだろうか。」を発問する。相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて、自分自身が相手に対してどのように接し、どのように対処することが相手のためになるのかをよく考えさせたい。そして困っている人を見て、素直な思いやりからの行為であることに気づかせたい。また相手が喜ぶ・喜ばない、誰かに褒められる・褒められないではなく、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことも大切であることに気づかせたい。

展開後段では、多角的に考えさせるために思考を深める発問として「本当の親切とはどう考えますか。」を設定し、「親切」について更に深く考えさせたい。また導入と似たような発問にすることで、思考の深まりを比べたい。

また普段の生活であまり関わりのない人に対して、相手の気持ちを考えた行動を行うことは、 難しくなるという人間理解についても深めていきたい。

(4) 本時のねらい

相手が喜ぶ・喜ばない、誰かに褒められる・褒められないではなく、相手の立場に立って考えて、誰に対しても思いやりの心をもって接することの大切さに気づかせる。

(5) 授業仮説

- ① 授業の展開場面において、「多様な考えを引き出す発問」と「思考を深める発問」の工夫を行うことで、児童は様々な感じ方や考え方にふれることができ、道徳的価値の理解を深め、自らの考えを深めることができるであろう。
- ② 思考を深める場面において、提示資料、キーワード、児童の発言等を「対比的・構造的」に 工夫し板書することで、児童が思考を広げるきっかけとなり、道徳的価値の理解を深め、自ら の考えを深めることができるであろう。

((6) 本時の展開(準備するもの:副読本,ワークシート,アンケート,顔絵)								
展開	□学習活動	発問(※補助発問は別紙に用意)	○教師の支援と指導上の留意点						
		・予想される児童の反応	■授業仮説の検証 ◇本時の評価(評価方法)						
導入	1学級の友達		○価値への方向づけなので、あまり時間をか						
5分	が「親切」に	①「親切」とはどういう意味でとらえてい	けずに, 事前アンケート結果の掲示するに						
	ついてどのよ	ますか。	とどめる。 //2 くずれ落りただんだ						
	うに考えてい	・やさしくすること ・気をつかう	(Markets)						
	るのかを見て	助け合うこと仲良くする	親切 Ell ? Manyarin						
	聞いて,学習	・相手のことを思う ・いいことをする	- CATCLOCK						
	の見通しをも	②親切はどうして大切なのだろう。	-8-9-322 -8-9-322						
	つ。	・相手との関係を良くするものだから	《水坛史》\$D.F.						
		・無いとけんかが起きてしまう	- Color						
展前	前 2 「くずれ落	多様な考えを引き出す発問	○範読 (5分程度)						
開月	と ちただんボー	③「わたし」と友子さんはだんボール箱の	○内容について確認するために隣の友達と話						
2	10 ル箱」を読ん	かた付けを手伝うことにしたのはなぜだ	合いをさせる。(2~3分程度)						
5	か で話し合う。	ろうか。(分析的)	○困っている人を見て、素直な思いやりから						
		・おばあさんがこまっていたから	の行為であることに気づかせる。						
		・男の子がまいごになってしまうから	○隣の友達やグループで話合いをさせてから						
		一人でかた付けているおばあさんがかわい	発表させる。						
		そうだから	○相手が喜ぶ・喜ばない、誰かに褒められる						
		・誰も手伝わないから	・褒められないではなく相手の立場に立って						
		多様な考えを引き出す発問	考えて、誰に対しても思いやりの心でもっ						
		④店員田口さんの手紙が来なかったら二人	て接することの大切さに気づかせる。						
		の気持ちは晴れなかったのだろうか。(共	○隣の友達やグループで話合いをさせてから						
		感的)	発表させる。						
		・晴れない。ごかいがとけて校長先生にほめ	■多様な考えを引き出す発問の工夫を行うこ						
		られたから晴れた。だから手紙が来ないと	とで児童は様々な感じ方や考え方にふれる						
		晴れない。	ことができたか。						
		・晴れる。いやな気持ちは忘れてしまった。							
		おばあさんの役に立ち、お礼を言われた時							
		の気持ちがだけ残る。							
		・晴れる。男の子はまい子にならず、おばあ							
_		さんも喜んだことは変わらないから。							
î	後 3 「親切」に	思考を深める発問	○親切に「本当の」という言葉を付けること						
Ę	没ついてふり返	⑤本当の親切って何だろう。(批判的)	で、更に深く考えさせたい。また親切につ						
1	.5 る。	・親切をするためには、相手の立場に立って	いて再発問することによって児童の親切に						
9	में	考えることが大切だ	対する考えが深まったかどうかの判断材料						
		・相手が喜ぶ・喜ばないではない	とする。(発問の意図)						
		・誰かにほめられる・ほめられないではない	○隣の友達やグループで話合いをさせてから						
		・誰に対しても思いやりの心をもって接する	発表させる。						
		ことが大切	■思考を深める発問の工夫を行うことで児童						
		・親切にすると清々しい気持ちになる	は様々な感じ方や考え方にふれることがで						
			き、道徳的価値の理解を深め、自らの考え						
			を深めることができたか。						

4授業をふり 終末 5分 返る。

ふり返りの視点

- ①わかったこと, 学んだこと
- ②友達のどの言葉が心に残ったか,理由を{ つける
- ③自分の何が変わったか



- ○ふり返りワークシートを配り, 授業のふり 返りを書かせる。
- ■思考を深める対比的・構造的な板書の工夫 をすることは,児童が思考を広げるきっか けとなり, 道徳的価値に対する考えを深め ることに効果があったか。
- ◇相手が喜ぶ・喜ばない、誰かに褒められる ・褒められないではなく、相手の立場に立っ て考えて,誰に対しても思いやりの心でも って接しすることの大切さに気づくことが できたか。(ふり返りワークシート)

(7) 評価

相手が喜ぶ・喜ばない、誰かに褒められる・褒められないではなく、相手の立場に立って考え て,誰に対しても思いやりの心でもって接することの大切さに気づくことができたか。

本時の授業仮説の検証は、授業観察、児童の発言、ふり返りワークシート、授業後のアンケートを 基に行った。

(1) 授業の展開場面において、「多様な考えを引き出す発問」と「思考を深める発問」の工夫を行う ことで、児童は様々な感じ方や考え方にふれることができ、道徳的価値の理解を深め、自らの考 えを深めている。

図3では、展開前段において発問した「多様な考えを引き出す発問」と児童の反応、発言をま とめ、考察を行った。

6様な考えを引き出す発問「わたし」と友子さんは だんボール箱のかた付けを手伝うことにしたのはな たんかールでの。 ぜだろうか。(分析的) 児童の発言

「大変そう」「困っていたから」「かわいそう」他 男の子のことを考えた発言:

「通路が邪魔で通れない」

「おばあさん」の立場に立って おばあさんの気持ちを考えた発言: 「ありがとう」「感謝」

烤察児童は「わたし」の立場に立って様々な人の事 を考えることができている。また,「わたし」ではな く,「おばあさん」の立場に立っておばあさんの気持 ちを考えることもできている。

多様な考えを引き出す発問 店員田口さんの手紙が来 なかったら二人の気持ちは晴れなかったのだろうか。 (共感的)

<u>児童の発言</u> ○気持ちは晴れない:28名

「店員さんに訳も聞かず怒られたから」 「店員さんに怒られたままだから」

○気持ちは暗れる : 4名

「おばあさんを助けたから」「良いことはしたから」 「良いことしたってわかっているからそれで十分」

「晴れる」の考えを聞いて、考えが変わった児童 が増えた。「怒られても、親切にしたことは変わり 考えが変わった児童 ないから」との発言が出た。

<u>| 樗察||</u>2つしかない考えであるが、理由付けをし発表 | させた。その展開の中で考えが変わったという場面 友達の考え, しかも自分とは違う考えに触れた という瞬間であったと考えられる。

展開前段における「多様な考えを引き出す発問」と児童の反応

展開前段では、児童は資料の主人公の心情や考えに自分を重ねて「共感的」に考えたり、主人 公から距離をおいて客観的に見て、「分析的」に考えたりすることができたと考える。また多様な 考えを引き出せたとも考えられ,友達の考えにもふれたとも考えられる。以上のことから多様な 考えを引き出す発問を工夫することは、児童は様々な感じ方や考え方にふれることができ、道徳 的価値の理解を深め、自らの考えを深めることに有効であったと思われる。

次に図4では、展開後段において発問した「思考を深める発問」と児童の反応、発言やふり返 りのワークシートをまとめ、考察を行った。図4の言葉と本時での発言を比較すると、下線を引 いたように,共通な言葉が見られた。また,思考を深める発問とグループの話合いを通して出さ れた本当の親切については、自分本位な考えの親切ではなく、相手のことをしっかりと考えた親 切が大切だと考えていると思われる。さらに、相手という一個人的な捉え方ではなく、通行人み んなのため等の不特定多数も対象にしていると思われる。

に書かせた児童 のふり返りワー クシートでは, 下線を引いた部 分から,児童は 価値について自 らの思いを深め

資料 1 の終末 | 思考を深める発問 本当の親切って何だろう。(批判的)

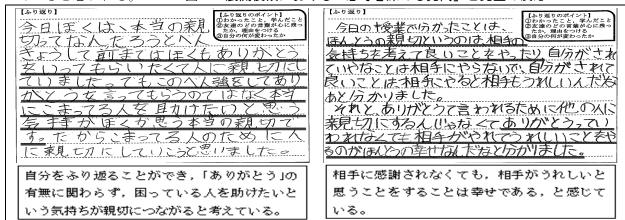
- 「ねらいとする価値への追求の見通し」より 【Ⅱ 資料を通して、改めて一般的な価値を自覚】
- ○親切をするためには、相手の立場に立って考える ことが大切が
- ○親切は、相手が喜ぶ・喜ばない、誰かに褒められる・褒められないではないによるところのもので はない
- ○<u>誰に対しても</u>,思いやりの心をもって接すること が天切だ
- ○相手のことを考え、親切にすると気持ちがいい

【展開後段:思考を深める発問とグループの話合い を通しての発言】

- 〇相手の気持ちを考える 〇ほめられたいではなく、本当に困っている人を助 けたいと思う気持ち
- 〇<u>みんなのこと</u>も考える
- ○<u>人のため</u> ○ありがとうって言われたいからではなく,人の事 を思っている
- ○自分がされて嫌な事はしない

ていると思われる。

図4 展開後段における「思考を深める発問」と児童の反応

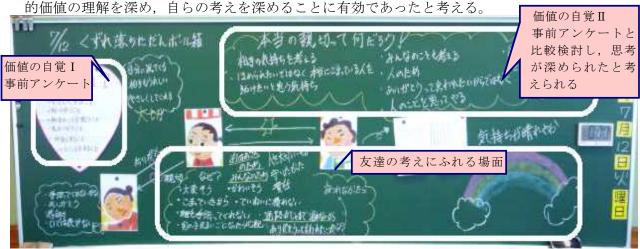


資料 1 児童のふり返りワークシート(本検証授業)

これらのことから、思考を深める発問を工夫することは、児童が自らをふり返り、自らの考え を深めることに有効であったと考える。

(2) 思考を深める場面において、提示資料、キーワード、児童の発言等を「対比的・構造的」にエ 夫し板書することで,児童が思考を広げるきっかけとなり,道徳的価値の理解を深め,自らの考 えを深めている。

「対比的・構造的」に計画した実際の板書が、資料2である。この板書は、左側に価値の自覚 I である事前アンケートを貼った。黒板の下側には、多面的思考につながり、友達の考えにふれる場 面の発言をまとめた。そして展開や終末の段階で児童が、この事前アンケートと対比できるように、 右側に価値の自覚Ⅱである、グループの発言をまとめた。対比すると、価値の自覚の言葉が変化し ていることがわかる。また、板書は児童の思考の流れを左から右上へ表している。これらのことか ら、提示資料、キーワード、児童の発言等を「対比的・構造的」に工夫し板書することは、道徳



資料2 実際の板書

V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前 (5月)、事中 $(6\sim7月)$ 、事後 (7月) の道徳アンケート、毎時間の授業のワークシート、検証授業の観察を基に行う。

1 思考を深める発問の工夫をすることは、児童が様々な感じ方や考え方にふれ、道徳的価値の理解 を深め、自らの考えを深めることに有効であったか。

思考を深める発問の工夫として,発問の精選を行い,展開前段では,多様な考えを引き出す発問を $1\sim2$ 問,展開後段では思考を深める発問を1問設定した。発問を精選することで,後段や終末部分に少しゆとりができた。一方で場面把握のため,資料の範読後に毎回「①登場人物,②出来事,③登場人物のそれぞれの気持ち」について内容確認をペアで行う時間を $2\sim3$ 分取り入れた。

事後アンケート結果から、道徳の授業が楽しいと感じている児童が100%になり、「話合いが楽しい」と挙げる児童が半数近くいた。**資料2**はその児童アンケートの楽しいと感じている理由をいくつか示したものである。

しらはかいの人の考えをきいしばいのろうないよいの多なとちがうのがいばいる	考える力か少した"け楽しいから。
どうとくのま食業はいる人な人の 発表をきいてにういうことかということが分かるからです。	いのかっ強で、自分がちてしまったいたことをふい返るから

資料2 児童のアンケート(授業が楽しい理由)

次に検証授業毎に発問によって、思考の深まりががあったかどうかの検証を行う。図2のねらいとする価値の自覚の見通しより、自覚 II や深めたいIII の考えに含まれるキーワードとなる言葉が、児童の書いたふり返りワークシートに記入されているかどうかで判断し、児童の割合を表2に示した。

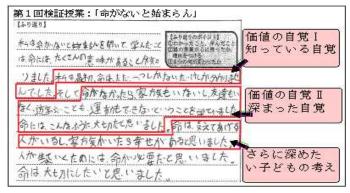
表 2 ねらいとする価値の自覚の見通しの自覚 Ⅱ以上に至った児童の割合

	検証授業	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
価値の)自覚Ⅱ以上の割合(%)	32	46	40	40	56	60	70	75

表2より、検証授業を重ねる毎に価値の自覚が深まったと判断される児童の割合が増えている。

更に児童のワークシートを基に、思考の深まりを検証する。児童の価値の深まりがわかるように、説明を加えたものが**資料3**である。このワークシートには価値の自覚Ⅰ、Ⅱ、さらに深めたい子どもの考えⅢの3つが書かれており、この児童は自らの考えを深めていると思われる。

以上のことから,思考を深める発問の工 夫をすることは,児童が様々な感じ方や考 え方にふれ,道徳的価値の理解を深め,自ら の考えを深めることに有効であったと考える。



資料3 児童のワークシート(価値の自覚の深まり)

2 思考を深める対比的・構造的な板書の工夫をすることは、児童が思考を広げるきっかけとなり、 道徳的価値の理解を深め、自らの考えを深めることに有効であったか。

毎回の検証授業では、「対比的・構造的な板書」ということを意識しながら工夫してみた。**資料4**は、指導書に載っている場面把握の流れ(時系列的な)の先行授業の実際の板書であり、**資料5**は第5回検証授業の実際の板書である。**資料5**は児童の発言対比的な板書になるように、意識して行った。



資料4 先行授業の実際の板書

資料5 第5回検証授業の実際の板書

その結果,児童の事後アンケートでは,資料6のような児童の感想が得られた。

カル先生へ、 道徳に関係することで言いたいこと・理田

黒板に書かれているのが見せずくて自分の意見が

カ地先生へ、道徳に関係することで言いたいこと・理由 マスも分かりかすいです、ながなら字がキレイで大力 な所は目立つ分で、

資料6 事後アンケートの板書に関する児童の感想(自由記述)

更に事後アンケート結果より、「黒板に書かれたことは、自分の考えをまとめるときや、ふり返りをするとき、発表するときなどに役に立った」と答えた児童が96.8%いた。また、「黒板に書かれたことは見てわかりやすく、ふり返りをすることに役に立った」と答えた児童が93.8%いた。資料7は、その事後アンケートの結果である。

質問内容 7/14実施(33名)	
※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の数字で検証した。	
黒板に書かれたことは、自分の考えをまとめるときや、ふり返り	96.8%
をするとき、発表するときなどに役に立ちましたか?(板書の工夫)
黒板に書かれたことは、見てわかりやすく、ふり返りをすることに	93.8%
役に立ちましたか?(板書の工夫)	

資料7 事後アンケートの板書に関する結果

以上のことから, 思考を深める対比的・構造的な板書の工夫をすることは, 児童が思考を広げ, 道徳的価値に対する考えを深めることに有効であったと考える。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 思考を深める発問の工夫をすることは、児童が様々な感じ方や考え方にふれ、道徳的価値の理解を深め、自らの考えを深めることにつながった。(V-1)
- (2) 思考を深める対比的な・構造的な板書の工夫をすることは、児童が思考を広げるきっかけとなり、 道徳的価値の理解を深め、 自らの考えを深めることにつながった。 (V-2)

2 今後の課題

- (1) 道徳的価値の理解をより深めるため、児童の言葉をより丁寧に拾い、問い返しやゆさぶりを適宜入れていくことで、議論をより活性化させるような工夫が必要である。
- (2) 道徳的価値の理解をより深めるため、児童と共に創る板書の工夫が必要である。

〈主な参考文献〉(※発行年の古い順、ネットアクセス月日)

大城仁美『島尻教育研究所 平成20年度 後期 研究報告書 29号』平成20年3月(2009年)

永田孝哉『小学校 道徳授業の進め方基本型~発問,写真でみる板書~』明治図書 2010年3月

永田繁雄・長谷徹・馬場喜久雄『板書で見る全時間の授業のすべて 高学年』東洋館出版社2012年2月 加藤官行『道徳授業を変える 教師の発問力』東洋館出版社 2012年7月

赤堀博行『道徳授業で大切なこと』東洋館出版社 2013年10月

服部敬一『どうとくのひろば特別号 特別の教科道徳ポイント解説資料』日本文教出版/秀学社 平成27年6月

永田繁雄『道徳教育 連載 8月号2015, 2月号2016』明治図書

本下美紀『Educo No. 39 2016冬号』教育出版 2016年(道徳科における問題解決的な学習の在り方) 長谷徹『道徳教育 3 月号 2016』明治図書 2016年

真榮城善之介『学習としてより深める「道徳の時間」- 「ねらいとする価値への追求の見通し」の 設定を通して-』琉球大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 第23号 2016年3月 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』平成27年7月(2016/4/5)

《http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2016/01/08/1356257_4.pdf》 東京書籍『小学校道徳 5 年 希望を持って(教師用指導書)』東京書籍株式会社